

THE MATHEMATICAL SOCIETY OF JAPAN
日本数学会

MATHEMATICAL
JAPANESE
PAN

a proof. Let us show that $H\Gamma$ is closed in G , which implies the first assertion. Suppose a sequence $g_n = h_n\gamma_n$ ($n \in \mathbb{N}$) of points in $H\Gamma$ converges to $g \in G$. Then, $g_n^{-1}\sigma_\ell(g_n) = \gamma_n^{-1}\sigma_\ell(\gamma_n)$ converges to $g^{-1}\sigma_\ell(g)$ in G on the one hand. On the other hand, the points $\gamma_n^{-1}\sigma_\ell(\gamma_n)$ belongs to the discrete set Γ by H -admissibility of Γ . Hence, there exists $n \in \mathbb{N}$ such that $\gamma_n^{-1}\sigma_\ell(\gamma_n) = g^{-1}\sigma_\ell(g)$, or equivalently $g\gamma_n^{-1} \in H$. Thus, $g \in H\Gamma$.

To prove the second assertion, suppose $\Gamma hK = \Gamma h_1K$ for $h, h_1 \in H$. Then there exist $\gamma \in \Gamma$ and $k \in K$ such that $h_1 = \gamma h k$. Since $\sigma_\ell(h_1) = h_1$, we obtain $\sigma_\ell(\gamma) h \sigma_\ell(k) = \gamma h k$, or equivalently $\gamma^{-1}\sigma_\ell(\gamma) = h k \sigma_\ell(k)^{-1} h^{-1}$, which, in turn, implies that $\gamma \sigma_\ell(\gamma)^{-1}$ belongs to $\Gamma \cap hKh^{-1}$. Since Γ is torsion free, $\Gamma \cap hKh^{-1} = \{e\}$. Thus, $\gamma \sigma_\ell(\gamma)^{-1} = e$, or equivalently $\gamma \in \Gamma_H$. In combination with $h_1 = \gamma h k$, the relation $\gamma \in \Gamma_H$ yields $k \in K_H$. \square

For an H -admissible lattice Γ in G , the H -period integral of $\phi \in \mathcal{A}_\tau(\Gamma; \tau)$ is defined to be the function $\phi^H : G \rightarrow V$ given by

$$\phi^H(g) = \int_{\Gamma_H \backslash H} \phi(hg) dh, \quad g \in G.$$

We focus on the value $\phi^H(e)$ at the identity, which belongs to $V^{H \cap K}$ ([12, Lemma 2]), and study the norm square of $\phi^H(e)$ collectively by taking summation over ϕ 's belonging to an orthonormal basis $\mathcal{B}(\nu)$ of $\mathcal{A}_\tau(\Gamma; \tau)$:

$$P_\tau^H(\Gamma; \nu) = \sum_{\phi \in \mathcal{B}(\nu)} \|\phi^H(e)\|^2.$$

By [12, Lemma 3], this number is independent of the choice of $\mathcal{B}(\nu)$. Note that the set

$$\mathcal{S}^H(\Gamma) = \{\nu \in S_\tau(\Gamma) \mid P_\tau^H(\Gamma; \nu) \neq 0\}$$

<http://mathsoc.jp/>

ごあいさつ



日本数学会 理事長
舟木 直久
President
Tadahisa Funaki

数学は長い歴史を持ち独自の問題意識で発展するとともに、諸科学を記述する基礎的な言語として用いられてきました。物理学や天文学との関係は長きにわたりますが、情報化社会といわれる今日の日常生活において、数学はあらゆる面で基盤となる重要な役割を担っています。

日本数学会は「数学の研究を盛んにし、またその普及をはかり、関係諸部門とも協力して学術文化の向上発展に寄与すること」を目的として設立された一般社団法人で、現在約5000人の会員を擁しています。この目的を達成するために日本数学会は、年会・秋季総合分科会、高木レクチャー、日本数学会季期研究所の開催、出版・顕彰事業、市民講演会や藤岡おもしろ数学教室の実施、さらに教育の改革あるいは数学研究の基盤整備などわが国の数学的な力の向上のための提言などを行っています。

数学者は、大小の違いはあれ、定理(命題)を生み出すために日々研鑽を積んでいます。数学はきわめて論理的な学問です。定理を示す過程の中で一箇所でも明確に証明できない点があれば、それは定理としては成立しません。しかし、いったん正しく示された定理はその前提となる条件が満たされる限り、様々な状況において適用することが可能になります。数学の特性はまさにこのような汎用性にあり、それが数学の有用性につながっています。数学の理論が本人の想定外のところで応用され成功した例は多数ありますが、伊藤清の確率解析はその典型例です。

数学の発展・普及と日本数学会

日本数学会は数学の研究の発展と普及につとめ、現代社会における数学の広がりのおかげで、さらなる社会への貢献を続けていこうとしております。皆さまのこれまでのご援助にあつくお礼申し上げますとともに、より一層のご支援をお願い申し上げます。

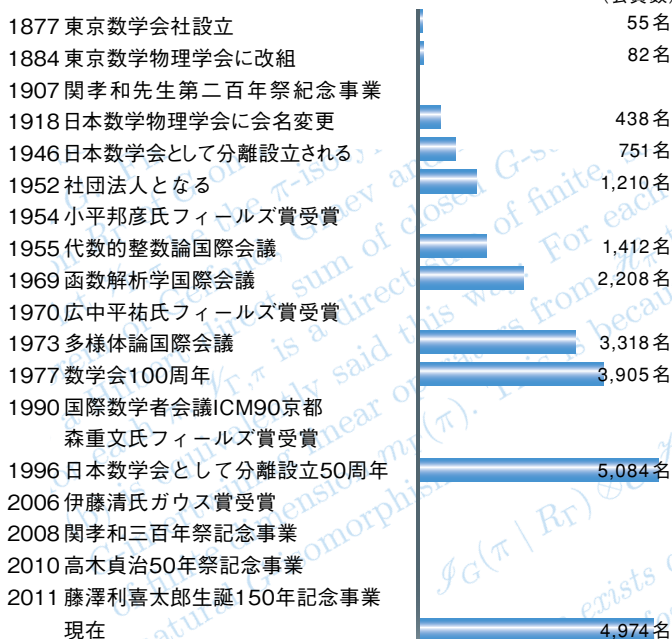
日本数学会のあゆみ

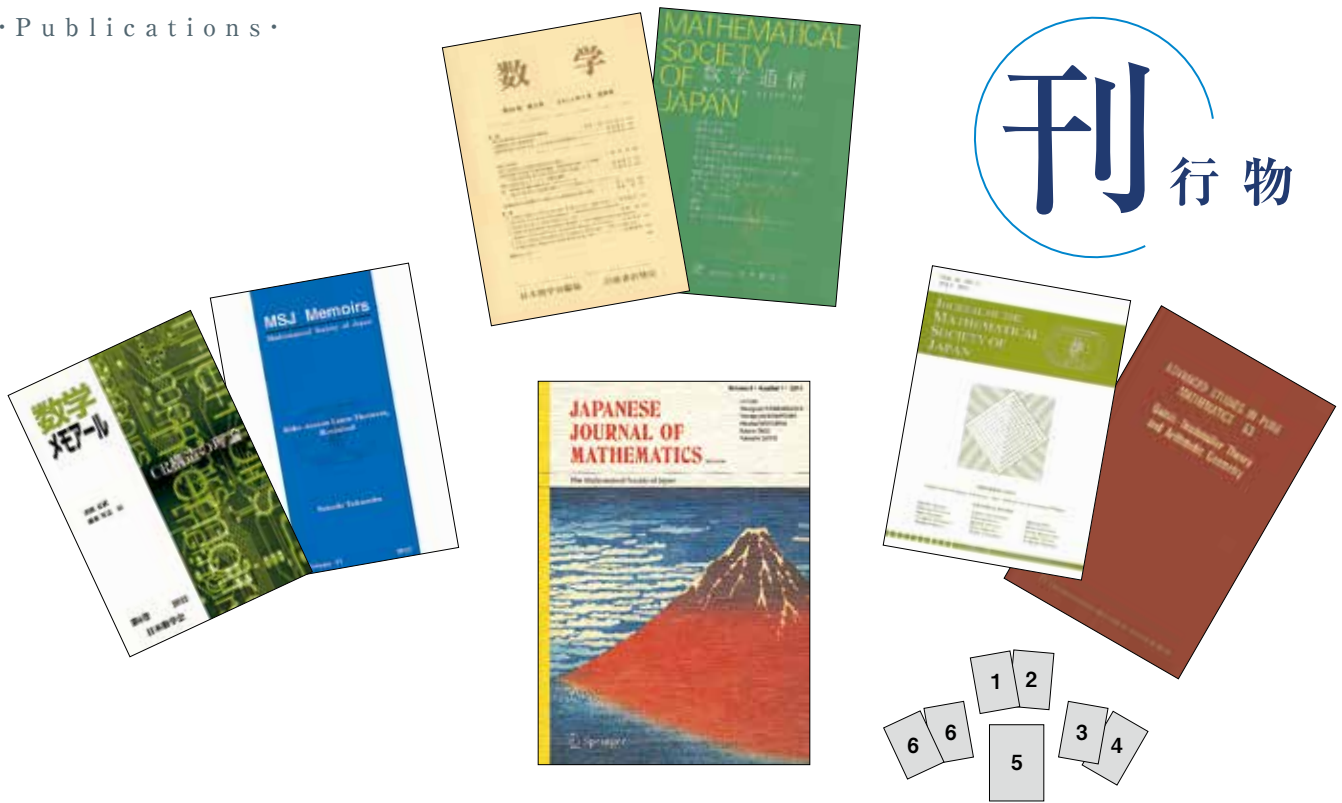
江戸時代日本で独自の発展をした和算の実力を背景に、日本人は明治時代の初めに新しい数学を容易に吸収し消化したことが知られています。

日本数学会の前身である東京数学会社の創立者達は、時代の息吹の中で諸学の基礎としての数学が重要であることを認識し、欧風の数学の導入に努力しました。それから130年、日本における数学研究は目覚ましく発展し、3人のフィールズ賞受賞者および第1回ガウス賞受賞者を輩出するなど、今日では確固とした国際的評価が確立しています。



故 小平邦彦氏 広中平祐氏 森重文氏 故 伊藤清氏





① 「数学」

「数学」は、日本数学会設立の翌年、1947年4月創刊の邦文誌で、現在は年4回発行され、岩波書店から発売されています。主に日本数学会会員による、数学に関する論説、企画記事、書評、学界ニュースなどを掲載し、会員には無償配布されています。論説は、専門外の人々にも楽しめ、理解できることを目的にした解説記事として書かれており、その多くは英訳され、アメリカ数学会から「Sugaku Expositions」という雑誌名で発行されています。「数学」の記事は独立行政法人科学技術振興機構(JST)によって順次電子化・無償公開されています。なお、電子版については下記URLを参照下さい。

<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/sugaku/-char/ja/>
 ※電子版の作成および公開は岩波書店の承諾を得て行っています。

② 「数学通信」

「数学通信」は日本数学会創立50周年を機に1996年に創刊された会員向けの季刊情報誌です。定期的な記事としては、会報のほか、巻頭言、数学会が主催した市民講演会等の記録、授賞報告、委員会・懇談会報告、会員ニュース、数学教室だより、支部・分科会便り、書評、公募ニュースなどの欄があります。また、その時々会員にとって有益な話題を特集記事として取り上げています。このように「数学通信」は、会員への情報提供あるいは会員相互の情報交換の場としての役割を果たしています。

③ 「Journal of the Mathematical Society of Japan」

日本数学会欧文誌 Journal of the Mathematical Society of Japan (JMSJ) は、1948年に創刊された純粋数学の総合誌で、質の高い国際学術誌として数学コミュニティに貢献しています。JMSJ は日本数学会の機関誌ですが、会員・非会員を問わず国内外から投稿される研究論文を、第一線の専門家による厳格な査読を経て掲載しており、わが国を代表する数学誌として国際的に広く認知されています。季刊誌で年4回発行され、オンライン公開はProject Euclid およびJ-STAGEで行っています。

④ 「Advanced Studies in Pure Mathematics」

Advanced Studies in Pure Mathematics (ASPM) は1983年に創刊され、日本数学会によって主催された国際研究集会など重要な研究集会の報告論文集として、現在、日本数学会によって編集、刊行されています。ASPMは、国際研究集会で発表された研究成果に関する研究論文のみならず、理論の創設者によって著わされたサーベイ的な論文なども掲載しており、これから研究を始める若手研究者や、そのテーマの最新の研究成果に関心のある他分野の専門家にとっても、貴重なレファランスとなっています。海外では、アメリカ数学会とWorld Scientific Publishing社によっても販売されており、2013年6月の時点で63巻が刊行されています。

⑤ 「Japanese Journal of Mathematics」

1924年創刊のJapanese Journal of Mathematics (JJM; 日本数学誌) は、継続されて刊行されている日本の数学欧文誌の中で最ものもです。日本数学会は、JJMの第3シリーズの創刊にあたり、JJMを「創造性に満ちた研究総説に特化した、権威ある学術誌」として位置づけ、2006年4月に刊行を開始いたしました。JJMに投稿された研究総説論文はすべて専門家によって査読され、その後掲載が決定されます。高木レクチャーをもとに書き下ろされた研究総説論文の最終版も査読後JJMに掲載されます。JJMの出版は日本数学会とSpringer社の協力で行なわれています。JJMのホームページではアブストラクトの和訳も掲載しています。なお、第1、2シリーズ(1924-1974、1975-2005)はJSTのJournal@rchiveによって電子化・無償公開されています。

⑥ 「MSJ Memoirs・数学メモアール」

数学メモアールには、英文と和文と、二つのシリーズがあります。英文シリーズでは、大学院テキストに使用するための講義録や、まとまった一つのテーマについての長編研究論文を刊行しています。和文メモアールは、大学院生をはじめとする若い研究者に、数学の新しい潮流をわかりやすく紹介するモノグラフです。両シリーズとも、純粋数学・応用数学全般を取り扱います。英文シリーズは海外ではWorld Scientific Publishingによって販売されています。

学術的会合

高木レクチャー

高木貞治先生（1875-1960）のお名前を冠した「高木レクチャー」が、2006年に創設されました。

「高木レクチャー」は、毎年、世界から卓越した数学者を日本に招き、専門分野を越えた数学者や若手研究者・大学院生を主な対象とし、創造のインスピレーションを引き起こすような気概に満ちた研究総説講演を行っていただき、日本発の新たな数学の創造に寄与することを目的としています。

高木レクチャーのブックレットは当日に配布され、それをもとに執筆された研究総説論文が、査読を経た後、JJMに掲載されます。



Prof. A. Connes
第8回高木レクチャー



Prof. L. Lafforgue
第12回高木レクチャー

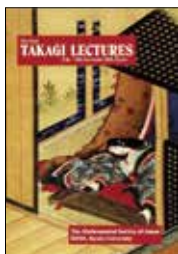


Prof. M. Kontsevich
第5回高木レクチャー



JJM (日本数学誌) のロゴ

このロゴは2005年のJJM存続の危機のときに、当時の理事であった小林俊行氏がJJMの再建の任にあたって、自らデザインしたものだ。大正時代から連続と続くJJMの伝統を尊重し、さらに、日本から新しい数学を発信するという願いがこめられています。JJMの文字でかたどった富士山は日本発信を象徴しています。



高木ブックレット

年会・秋季総合分科会

毎年、春と秋に日本数学会は大会を開きます。約1500名の数学者が集い、研究の発表や討論を行うものです。大会では、日本数学会賞春季賞、同秋季賞、同建部賢弘賞、関孝和賞、出版賞などの受賞者の発表や授賞式が行われ、総合講演・企画特別講演・各分科会の特別講演など、数学の動きを知る上で欠かせない重要な講演も行われます。

大会の際には、市民を対象とする、数学の啓蒙的講演会「市民講演会」や、数学と数学教育の役割について意見を交換する「シンポジウム」が開かれます。

日本数学会季期研究所 (MSJ-SI)

日本数学会は、国際交流や国際研究集会の活動を行っています。

このような活動の一環として、第一線の国外の研究者を招いて日本数学会国際研究集会 (MSJ-IRI) を2006年まで年1回開催しました。2008年からは、これを拡張して発展的に引き継ぎ、日本数学会季期研究所 (MSJ-SI) を開催しています。

とくに、アジアの中の日本という視点から、アジア諸国の数学者との関係を重視し、積極的な交流を推進しています。



第5回MSJ-SI 2012年7月17日～7月20日、7月23日～7月27日
Schubert calculus
大阪市立大学

第6回MSJ-SI 2013年6月11日～6月14日、6月17日～6月21日
Development of Moduli Theory
京都大学



第5回MSJ-SIでの講演の様子

市民との接点

市民講演会

日本数学会では、春の年会と秋季総合分科会の際、会場校の近くで、高校生、大学生、教師、会社員など一般の市民の方に、数学の楽しさを実感していただくための、講演会「市民講演会」を開催しています。

以下のウェブページより、過去の講演の講演記録とビデオが利用できます。

URL <http://mathsoc.jp/outreach/shimin-index.html>

都合で利用可能でないものもあります。



数学・数理科学のためのキャリアパスセミナー

日本数学会では博士課程学生の社会への輩出を支援するキャリアパスセミナーを春の年会において2012年よりはじめています。博士課程でインターンシップを行って博士課程修了後に企業に就職し活躍されている方からの体験談、数理系学生等を採用する企業の考え方等についての講演、および数理系の博士課程修了・修了予定者の採用を検討している約20社の企業がブースを設置して個別相談に応じるものです。2012年3月には東京理科大学で、2013年3月は京都大学にて行いました。いずれも多くの学生や学会員が参加する盛況な企画となっています。



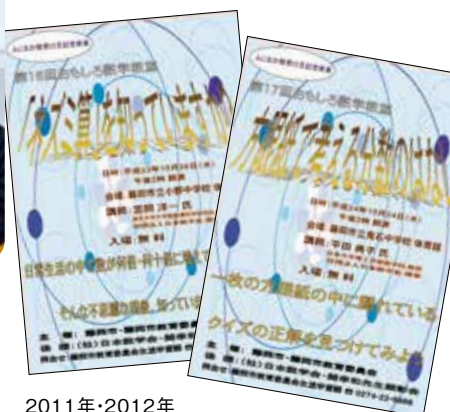
京都大学で開催されたキャリアパスセミナーの様子(2013年3月20日)

藤岡おもしろ数学教室

関孝和にゆかりのある群馬県藤岡市と日本数学会とは、1994年度の日本数学会関孝和賞創設以来交流が続いています。その一環として、当地の中学生を対象とした講演会「藤岡おもしろ数学教室」を毎年1回開催しており、数学会からは講師を派遣しています。



2011年度講師
宮岡洋一氏



2011年・2012年
藤岡おもしろ数学教室



2012年度講師
平田典子氏

出前授業

日本数学会では、多くの子供たちに数学を学ぶ楽しさを伝えるために、2004年度より会員を小中高校に派遣する事業を行っています。会員に対して、そのための講師派遣リストへの登録の依頼も継続的に行っています。この事業では、数学会への依頼があれば、出来る限り条件にあう会員の派遣をお世話します。依頼は日本数学会事務局へお願いします。

顕彰事業

Unitary principal series: π_ν ($\nu \in \sqrt{-1}\mathbb{R}$). For $\nu \in \sqrt{-1}\mathbb{I}$ tion $(\pi_\nu, \mathcal{H}_\pi^\infty)$ is unitarizable by the inner product

$$\langle \varphi | \varphi' \rangle_{\pi_\nu} = \int_{\mathfrak{g}_0} \varphi(v) \bar{\varphi}'(v) d\omega(v)$$

([8, Proposition 5.1]). Thus, we obtain an irreducible unitarization π_ν on the completion of \mathcal{H}_ν^∞ by the inner product above. Let l_ν^0 to be $u(\nu)$ for any $\nu \in \sqrt{-1}\mathbb{R}$. Then, $(\mathcal{H}_\nu^{-\infty})^H$

日本数学会賞 春季賞・秋季賞

日本数学会は1973年に、故彌永昌吉氏からの寄付金を基金として「日本数学会彌永賞」を設け、1987年まで毎年1名、重要な研究成果をあげた当学会の若手研究者に賞を授与してきました。1987年秋に、故秋月康夫氏の御遺族からの寄付金とその他の寄付金を加えて新たに、日本数学会賞を創立し、従来の彌永賞の趣旨を継承する「春季賞」と、特に優れた業績をあげた当学会の研究者に授与する「秋季賞」を設けました。

その後、故木村俊房氏、故松村英之氏、故丸山滋康氏、故加藤敏夫氏の御遺族からの寄付金とその他の寄付金も新たに加わっています。



●2011年度
秋季賞受賞者
二木昭人氏
「二木不変量による
アインシュタイン計量の
研究」



●2012年度
春季賞受賞者
太田慎一氏
「測度距離空間・
フィンランダー多様体上の
幾何解析」



●2012年度
秋季賞受賞者
中尾充宏氏
「精度保証付き数値計
算の研究及びその偏微
分方程式への応用」



●2013年度
春季賞受賞者
浅岡正幸氏
「双曲力学系および
関連する幾何学の
研究」

代数学賞

広い意味での代数学の発展に貢献した研究者に授与される賞です。



●2012年度受賞者(左から)
伊吹山知義氏、後藤四郎氏、金銅誠之氏

●2013年度受賞者(左から)
荒川知幸氏、市野篤史氏

解析学賞

2002年には「解析学賞」が設けられました。この賞は、広い意味での解析学の発展に貢献した研究者に授与される賞です。



●2011年度受賞者(左から)
日野正訓氏、松井宏樹氏、森本芳則氏



●2012年度受賞者(左から)
隠居良行氏、坂口茂氏、谷口正信氏

幾何学賞

幾何学賞は、1987年に幾何学研究者有志からの寄付金を基金として設けられたもので、広い意味での幾何学の発展へ貢献した研究者に授与される賞です。



●2011年度受賞者(左から)
齋藤恭司氏、太田慎一氏

●2012年度受賞者(左から)
大鹿健一氏、戸田幸伸氏

日本数学会賞 建部賢弘特別賞／奨励賞

建部賢弘(1664-1739)は、関孝和の高弟で、独自で三角関数表を作成した人物です。1996年の50周年を記念し、日本数学会建部賢弘賞が創設されました。建部賢弘特別賞・奨励賞の2つの賞に分けられ、特別賞は若くして優れた業績をあげられた人の顕彰を、奨励賞は優れた業績で数学研究を始めた若い人達の奨励をそれぞれ目的として制定されたものです。



●2011年度受賞者
(左から)
三竹大寿氏(奨励賞)
権業善範氏(奨励賞)
梶野直孝氏(奨励賞)
今井直毅氏(奨励賞)
桑田和正氏(特別賞)
(右上左から)
阿部知行氏(特別賞)
加藤周氏(特別賞)
久野雄介氏(奨励賞)



●2012年度受賞者
(2列目左から)
高田了氏(奨励賞)
白石大典氏(奨励賞)
米田剛氏(特別賞)
(1列目左から)
馬昭平氏(奨励賞)
緒方芳子氏(特別賞)
東谷章弘氏(奨励賞)
(右上)
佐藤康彦氏(奨励賞)

小平邦彦先生、伊藤清先生、生誕百年記念事業

小平邦彦先生は20世紀を代表する数学者の一人です。先生は戦後まもない1949年に渡米してプリンストン、ジョンズ・ホプキンス、スタンフォードで教鞭を執り、1967年の帰国後は東京大学・学習院大学において後進の指導に当たられました。「小平消滅定理」や「小平埋め込み定理」をはじめとする多様体上の調和解析の研究によって、1954年、欧米人以外では初めてのフィールズ賞受賞者となったほか、文化勲章、ウルフ賞など数々の栄誉に輝きましたが、1997年、82歳をもって逝去されました。

線形微分方程式の研究からスタートした小平先生の研究は、リーマン多様体上のポテンシャル論を経て、ヘルマン・ワイルのリーマン面理論の高次元化である複素多様体の壮大な理論へと発展しました。ヒルベルト空間論や偏微分方程式論、複素関数論に代表される解析的理論と、代数的ないしは位相幾何学的な層のコホモロジー理論とを結合することによって、先生は高次元の幾何学に新しい地平を切り開き、多様体上の調和解析(フィールズ賞)、複素構造の変形理論(学士院賞・文化勲章)、複素曲面の分類理論といった新しい分野を築きました。こうした業績は、それ以後の代数幾何(スキーム理論・双有理分類理論)や微分幾何(複素微分幾何・シンプレクティック幾何・CR 幾何)さらには数理物理学(超弦理論)に計り知れない影響をおよぼしました。先生の学問的業績は全3巻1600ページに及ぶ論文集に納められており、ほかに自伝的エッセー集が2冊、数冊の啓蒙書もあります。

小平先生に関連した記念事業としては、先生が行った講演のビデオや絶版となっている記念論文集といった貴重な歴史的資料の電子化と一般公開、東京大学との共同による記念論文集の発行と記念研究集会の開催。さらには市民講演会や資料展示といったものを行っています。

伊藤清先生は、コルモゴロフ、レヴィと並ぶ現代確率論研究の開拓者です。第1回ガウス賞を始めとして、京都賞、ウルフ賞、文化勲章等数々の賞を受賞され、2008年に93歳で逝去されました。ガウス賞は「数学の応用」を対象に2006年の国際数学者会議(ICM)において創設された賞ですが、先生の受賞理由として「確率解析・確率微分方程式の理論の創始、その後の数理ファイナンスや数理生物学への応用」が上げられています。

確率微分方程式とは確率的摂動項を持つ微分方程式のことですが、物理、生物、工学、経済などあらゆる分野で現れます。理論の中核をなすのが、伊藤の公式(伊藤の補題)です。この理論に基づく研究で Robert Merton と Myron Scholes は1997年にノーベル経済学賞を受賞しています。またSLE(確率論的レグナー発展)の理論でICM2006で Wendelin Werner が、続いてICM2010で Stanislav Smirnov がフィールズ賞を受賞していますが、そこでも確率微分方程式の理論が使われています。

伊藤先生に関連した記念事業の詳細は未定ですが、現時点では以下のようなものを予定しています。伊藤先生の未出版のレクチャーノート類、日本の確率論グループによる刊行物「Seminar on Probability」および「確率論の手引」、関連する出版物等の電子版を、日本数学会ならびに京都大学のウェブにより一般公開します。伊藤先生の講義風景を録画したビデオの一般公開も考えています。日本数学会の欧文誌「Journal of the Mathematical Society of Japan」は、伊藤先生記念特集号を組み刊行します。また、京都大学数理解析研究所と共同で、2015年に大規模な国際研究集会を開催する予定です。さらに、市民講演会なども開催したいと考えています。

日本数学会関孝和賞

関孝和(?-1708)は、関流数学の創始者であり、鎖国時代に日本独自の数学を発達させた人物です。日本数学会関孝和賞は、個人または団体を対象として長年にわたり数学の研究業績以外の功績によって数学の発展に寄与し、それを通して学術文化の向上に特に顕著な貢献をした個人または団体に対しこれを授与するものです。

関孝和にゆかりのある藤岡市から、賞状と関孝和のブロンズ像が贈られます。



- これまでの受賞者(左から)
- 1995年 故 谷口豊三郎氏
- 1996年 故 Prof.F.Hirzebruch
- 2006年 The Japan-U.S. Mathematics Institute
- 2007年 Institut des Hautes Études Scientifiques

出版賞

2004年度には「出版賞」が設けられました。この賞は著作活動により数学の研究・教育・普及に顕著な業績をあげた個人または団体を顕彰する賞です。



●2012年度出版賞受賞
共立出版「現代数学の系譜」



●2013年度出版賞受賞
砂田利一氏

JMSJ 論文賞

JMSJ論文賞(The JMSJ Outstanding Paper Prize)は、授賞年前年の Journal of the Mathematical Society of Japan に掲載された論文のうち、特に優れたもの(3篇以内)の著者に贈られます。この賞は、若い研究者への励みとなるとともに Journal of the Mathematical Society of Japan の学術水準と国際的知名度の向上に資することを願って2010年に新設され、原則として春の年会時に授賞式を行います。

- 2012年度JMSJ論文賞受賞
Ivan Izmitiev氏「Examples of infinitesimally flexible 3-dimensional hyperbolic cone-manifolds」
都築正男氏「Limit formulas of period integrals for a certain symmetric pair II」
- 2013年度JMSJ論文賞受賞
柳田伸顕氏「Chow rings of nonabelian p -groups of order p^3 」
Gopal Prasad氏及びSai-Keel Yeung氏「Nonexistence of arithmetic fake compact Hermitian symmetric spaces of type other than An ($n \leq 4$)」

日本数学会の概要

本学会の正会員は数学の研究者ばかりではなく、教育者、学生などの数学に興味を持つ方々です。また、賛助会員の制度があり、本学会の事業に援助をして下さる法人に加入していただいております。2013年度の会費は次の通りです。

正会員会費…年額18,000円

賛助会員会費…一口年額30,000円

学生や70歳以上の会員には会費の割引制度があります。

学生割引適用(在学証明書送付者)…年額9,000円

高齢会費適用(在会10年以上で年齢70歳以上、要申込)…年額12,000円

2005年4月から在会30年以上で年齢75歳以上の会員に対し会費を免除する名誉会員制度が、2013年4月から在会25年以上で年齢65歳以上の会員に対する終身会員制度が始まりました。

会員には、邦文誌「数学」(季刊)「数学通信」(季刊)を配布しています。また名誉会員を除く会員にはご希望により欧文誌Journal of the Mathematical Society of Japanの冊子体を配布しています。

外国数学会の交換会費制度があり、現在、アメリカ数学会、フランス数学会、ニュージーランド数学会、韓国数学会、ロンドン数学会、ドイツ数学会、オーストラリア数学会、スペイン数学会、チュニジア数学会、中華民国数学会、クロアチア数学会と交換協定を結んでいます。入会手続きについては、本会またはお近くの大学の数学教室でおたずねください。

名称 一般社団法人/日本数学会(The Mathematical Society of Japan)

事務局 〒110-0016 東京都台東区台東1-34-8 tel.03-3835-3483
(34-8, Taito 1-chome Taito-ku Tokyo 110-0016, Japan)

URL <http://mathsoc.jp/>

目的 数学の研究を盛んにし、またその普及をはかり、関係諸部門とも協力して
学術文化の向上発展に寄与することを目的とする

- 事業
- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1.学術的会合の開催 | 6. 数学研究の交流及び数学の研究成果の普及 |
| 2.学会誌及び図書の刊行 | 7. 社会における数学基盤の整備 |
| 3.数学に関する図書及び雑誌の収集整備 | 8. 数学の発展及び普及のための調査・研究 |
| 4.数学研究の奨励及び数学に関する業績の顕彰 | 9. 国内外の関連学会、諸団体との連絡及び協力 |
| 5.数学研究者の育成 | 10.その他目的を達成するために必要な事業 |

学術的会合の予定

●2013年度秋季総合分科会
2013年9月24日(火)～9月27日(金)
愛媛大学

●第13回高木レクチャー
2013年11月16日(土)～11月17日(日)
京都大学数理解析研究所

●2014年度年会
2014年3月15日(土)～3月18日(火)
学習院大学

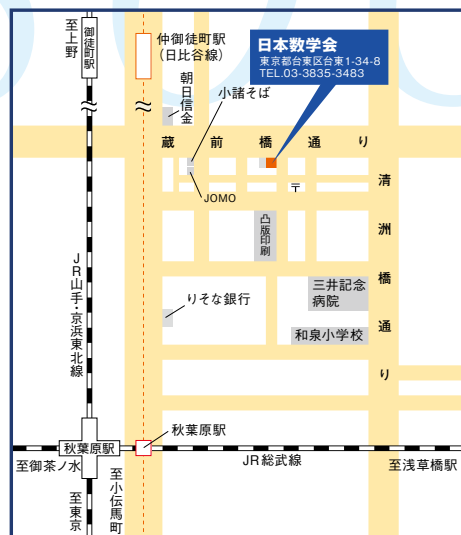
●第7回MSJ-SI
2014年7月30日(水)～8月5日(火)[予定]
Hyperbolic Geometry and Geometric Group Theory
東京大学

●2014年度秋季総合分科会
2014年9月25日(木)～9月28日(日)
広島大学

●2014年度高木レクチャー 春と秋に開催予定

●2015年度年会
明治大学

●2015年度秋季総合分科会
京都産業大学



事務局所在地

蔵前橋通り南側で、台東一丁目交差点から、鳥越一丁目の間にあります。

交通アクセス

JR線

秋葉原駅から徒歩約10分

御徒町駅から徒歩約15分

東京メトロ(旧営団地下鉄線)

日比谷線秋葉原駅から徒歩約8分

日比谷線仲御徒町駅から徒歩約10分

銀座線末広町駅から徒歩約8分

(末広町駅から蔵前橋通りを東の鳥越神社の方向に)

都営地下鉄

大江戸線新御徒町駅から徒歩約7～8分

(駅から南へ竹町公園を経て蔵前橋通りへ)

日本数学会では、理事会を中心に日本における数学にかかわる諸問題を検討し、時に応じ声明を出しています。数学会が出した声明は上記の数学会サイト内のURL(<http://mathsoc.jp/proclaim/>)から参照できます。